

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科卒。「料理の鉄人」や「ニューデザインパラダイス」、映画「おくりびと」など数多くのヒット作品の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



エリアコンサルティング

LEXUS NEW TAKUMI PROJECT(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や技術を生かし、新しいモノづくりで挑む「匠」を応援する。

「地域のオリジナリティーはあるか?」「コンセプトやターゲットは明確か?」など、サポートメンバーから真剣なアドバイスが行われ、匠は約一年の試行錯誤を経てプロダクトを完成させた。



1月18日、プレゼンテーションにて

1月18日に都内で行われたイベントでは全国の百貨店、セレクトショップのパイヤー、メディア、デザイナー関係者などに向けてプレゼンテーションを実施。世界へ羽ばたく足がかり、ビジネス拡大のきっかけとなるチャンスを手にした。

「新しい」感覚やテクノロジーの特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出すという思いと、完成したプロダクトを紹介する。

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクノロジーを吹き込む。「地域」の魅力を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出すという思いと、完成したプロダクトを紹介する。

「新しい」感覚やテクノロジーの特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。日本のモノづくりを支え発展させ、そこから新しい価値を生み出すという思いと、完成したプロダクトを紹介する。

復興が進む女川でギターを創る



作品をプレゼンする梶屋さん

梶屋さんが女川町でギター工房を立ち上げようと考える背景には東日本大震災がある。鹿児島県種子島出身の梶屋さんは、当時東京の大手楽器小売店に勤務。ギターを担当するトップセールスマンとして活躍していたが、震災が起き、東北のために何か貢献したいという思いに突き動かされ、直後から被災地に入った。子どもたちに、全国から集まったウクレレを届けたり、中高生のダンスや音楽イベントをサポートするなど自分の人脈や経験を活かした活動を続けた。

そうした活動を続けながら梶屋さんは女川町と出会い、ひとつの想いを形にするための大きな一歩を踏み出す。足がかりとして、2014年、株式会社セツシヨナブル設立。国産エレキギター・ベースの専門店GLIDE・GARAGEを仙台市街地にオープンした。

地元にこだわりの高品質なギターを

2016年3月、女川町に工房GLIDE・GARAGEを構え、スタッフと共に本格的にオリジナルのギターづくりをスタートさせた。実際に工房でギターを製造するのは3人のスタッフ。梶屋さんはプロデューサーとして、設計や構想を受け持つ。そんな梶屋さんがこだわっているのは高品質とオリジナリティーあふれる製品づくりだ。

そのために選んだのが国産の材料だ。ギターの鳴りと耐久性の良い木材を使うため、木を切る段階から選定できる国産の木材を使っている。さらに音の振動性を高めるために、釜石市で開発された新合金コバリオンをボディの弦を留めるパーツに使い、音の伸びと厚みを高めた。

製造技術にも東北らしさが活かされている。陸前高田市の宮大工・気仙大工の技術を用い、ネックとボディをボルトを使わずにつなぎ、密着度を高め、よりクリアな音質を得ることに成功した。

プロジェクトから新たな製品が誕生

梶屋さんは今回のプロジェクトに参加し、レクサスのモノづくりの考え方や小山氏をはじめとするサポートメンバーのアドバイスが大きな刺激になったという。「自社の製品もレクサスのように世界で一流と認識されるものにしていかねばならないということに改めて自覚し、クオリティーや顧客価値を高めたい」と述べた。

全国の匠との交流もさまざまな素材や技術について知ったり、モノづくりに関わる視点の違いを感じるなど、今後には繋がる良い気付きになった」と語っている。

昨年12月、オリジナルブランドQUESTREL(ケストレル)「SWOOD ベース」

プロジェクから新たな製品が誕生

梶屋さんは今回のプロジェクトに参加し、レクサスのモノづくりの考え方や小山氏をはじめとするサポートメンバーのアドバイスが大きな刺激になったという。「自社の製品もレクサスのように世界で一流と認識されるものにしていかねばならないということに改めて自覚し、クオリティーや顧客価値を高めたい」と述べた。

全国の匠との交流もさまざまな素材や技術について知ったり、モノづくりに関わる視点の違いを感じるなど、今後には繋がる良い気付きになった」と語っている。

昨年12月、オリジナルブランドQUESTREL(ケストレル)「SWOOD ベース」

完成プロダクト、QUESTREL(ケストレル)「SWOOD ベース」



完成プロダクト、QUESTREL(ケストレル)「SWOOD ベース」

品もレクサスのように世界で一流と認識されるものにしていかねばならないということに改めて自覚し、クオリティーや顧客価値を高めたい」と述べた。

全国の匠との交流もさまざまな素材や技術について知ったり、モノづくりに関わる視点の違いを感じるなど、今後には繋がる良い気付きになった」と語っている。



女川の町の空気感が好きと語る梶屋さん



梶屋 陽介
宮城県／エレキギタープロデューサー

2008年株式会社黒澤楽器に入社。震災を機に取り組んだ東北への楽器や音楽でのサポートを通じて、地域資源を活用した新たな産業の必要性を考え始める。2014年に株式会社セツシヨナブルを設立。宮城県女川町でのギター製造事業を立案し、仙台市街地にギターショップをオープン。2016年3月にギターデザインの、コンセプトを発表し、製品化に向けた試作を開始。



ギターづくりに欠かせない工具



地元の技術と素材が使われている



商談会の様子



シーバルビア女川の一角にある工房GLIDE・GARAGE

